
僕達と瑠璃と足跡

村上 峻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕達と瑠璃と足跡

【Nコード】

N7726A

【作者名】

村上 峻

【あらすじ】

僕達は、この狭い部屋で呼吸をしていた・・・

テレビを消して欲しいと頼んだのはイサキだった。

サトウは少し嫌な顔をしてテレビの電源を落とした。

布団をふた組み敷けば足の踏み場が無くなるほどの広さしかないこの部屋で、僕達は呼吸をしていた。

イサキとサトウと僕。僕の名前はコンドウ。

僕は立ち上がって台所に向かい、冷蔵庫の中からパックに詰まった牛乳を取り出した。

その牛乳はイサキが、この部屋の中で一番気まぐれである住人のために、買ってきた物だった。

僕は牛乳を水色のプラスチックの容器に注いだ。

すると、どこからともなく瑠璃が現れて、そのままつんと立てた尻尾を左右に揺らしながら、ミルクのある方向へと歩み寄った。

僕達がこの部屋で共同生活を初めて3日が経とうとしているのに、机の上の画用紙の白い部分はいっこうに埋まらないでいた。

課題の提出日はあと三日後に迫っている。

サトウは単位を取ることよりも麻雀の腕を上げることに夢中だし、イサキや僕もどうしてか今回は筆が進まないでいた。

イサキがタバコに火を付けるのとほぼ同時に、僕は冷蔵庫からビールを取り出した。

すると、いきなりサトウが立ち上がって瑠璃に近寄り、何を考えたのか瑠璃のミルクを取りあげた。

食事を邪魔された瑠璃はギツとサトウを睨み付けた。

サトウが瑠璃のミルクを手に持ったまま、テーブルの向こうへと移動する。

瑠璃は攻撃的な鳴き声を上げてサトウに真っ直ぐに歩みよった。

やがてテーブルを乗り越えた瑠璃がサトウの足下に置かれたミルクにたどり着く頃、画用紙の上からは一つの作品が生まれようとしていた。

僕らはその絵を「6月の夜の奇跡」と名付け提出した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7726a/>

僕達と瑠璃と足跡

2011年1月16日08時07分発行